



日一十月三年五和昭... 刊一十月二年五和昭... 頁一第... 頁二第... 頁三第... 頁四第... 頁五第... 頁六第... 頁七第... 頁八第... 頁九第... 頁十第... 頁十一第... 頁十二第... 頁十三第... 頁十四第... 頁十五第... 頁十六第... 頁十七第... 頁十八第... 頁十九第... 頁二十第... 頁二十一第... 頁二十二第... 頁二十三第... 頁二十四第... 頁二十五第... 頁二十六第... 頁二十七第... 頁二十八第... 頁二十九第... 頁三十第... 頁三十一第... 頁三十二第... 頁三十三第... 頁三十四第... 頁三十五第... 頁三十六第... 頁三十七第... 頁三十八第... 頁三十九第... 頁四十第... 頁四十一第... 頁四十二第... 頁四十三第... 頁四十四第... 頁四十五第... 頁四十六第... 頁四十七第... 頁四十八第... 頁四十九第... 頁五十第... 頁五十一第... 頁五十二第... 頁五十三第... 頁五十四第... 頁五十五第... 頁五十六第... 頁五十七第... 頁五十八第... 頁五十九第... 頁六十第... 頁六十一第... 頁六十二第... 頁六十三第... 頁六十四第... 頁六十五第... 頁六十六第... 頁六十七第... 頁六十八第... 頁六十九第... 頁七十第... 頁七十一第... 頁七十二第... 頁七十三第... 頁七十四第... 頁七十五第... 頁七十六第... 頁七十七第... 頁七十八第... 頁七十九第... 頁八十第... 頁八十一第... 頁八十二第... 頁八十三第... 頁八十四第... 頁八十五第... 頁八十六第... 頁八十七第... 頁八十八第... 頁八十九第... 頁九十第... 頁九十一第... 頁九十二第... 頁九十三第... 頁九十四第... 頁九十五第... 頁九十六第... 頁九十七第... 頁九十八第... 頁九十九第... 頁百第...

平町公會堂の建設

明年度豫算に計上

本館二六四坪百疊の日本間
工費は少なくとも五六萬圓

平町に於て字仲町の町有宅地一間を添えこれに附屬建築物を作
る公會堂は目下本縣警備課の
近藤技師により設計中であつ
て明年年度豫算に計上されるも
の如くであるが大体的構圖
が出来た同公會堂は本屋に横
十二間長さ二十二間に亘る二
百六十四坪(三千人収容)の會
堂を設け別棟に百疊敷の日本

平小鐵道の路線を

鹿島村經由の陳情

志賀村長外村議六名上京し
来る十六日鐵道省に

平小鐵道の敷設路線に對する
關係地の奪取運動は會報の如
く各沿線地負け劣らずの活
動を續けてゐるが最初に於け
る豫定地と見られたる直通線
に差かゝる鹿島村では最近に
至り片濱迂回を有力視される
世評専らのため同村經由の陳
情に今十三日東京の宮であつ

需要期の努力に

木炭指導員會議

濱三郡木炭同業組合に於て
大馬力の訓示と申合せ

濱三郡木炭同業組合では需要
期に臨む活動の爲め来る十九

アドワするは伊工職争
から出来た脅威だ、エ
チオピアにある市でイ
タリに取つての宿怨
の地である、アドワす
ると云ふ此所の意味
は其れを轉用して怨を
はらすと云ふことだ

窃盜前科四犯の賊

今朝好間村で逮捕

農家の不在に忍び金品物色中
家人に發見されて格闘

石城郡好間村の北好間字平場
居住炭礦坑夫窃盜前科四犯大
山廣(四七)は今日午前九時
頃同村上好間字今宿農渡邊房
治方の農家不在に忍び金品を
物色中房治の長男定治(四一)が
野良から歸り發見と同時に使
入を咎められインキを買ひに
来た上胡麻化しを云つたが効
されず見て定治の隙に乘じ

災害地種付牝馬に

一千九百圓の補助

石城産馬組合に於ける
千三百二十頭に對し

石城産馬組合では被災地
種付牝馬種付補助交付に對
して該馬一千三百三十頭を
上げ此の補助金一千九百三
十四圓千五百圓を申請中であつ
たが今回請求の通り補助金の交付
を受けた同補助金の割合は種

入退兵の

歓迎

鹿島村で従來の
慣行を改める

八十四三十六歳でると
役場内に區長會を開き協議の
結果従來の慣行を改め今年か
ら入隊兵に對しては一名に對
し歓迎三輪を限り各大字の
神社前に於て祈願奉告祭を行
ひ除隊兵にも前記同様の方法
を以てなす尚ほ土産物は絶對
に廢止することを申合せた

三菱の

冬のサービス

便利で經濟で危險がない
奉仕的な利用勧誘

東部電氣平營業所では毎年冬
期に臨む電氣コタツの需要準
備に對し特別なサービスを以
て應じてゐるが同社の特權提
供する三菱電氣コタツは便利
で危險がないのみでなく經濟
的に衛生的に特點を有し暖房
装置には此の上もないものと
されて居り年と共に利用者
増してゐるので本年は従來に
倍するサービスの下に勧誘中
である此の特權期間中である
申込者の特典は器具の特價と
屋内線の無料貸付取付工料な
らして電氣料の割引があり尚ほ
各種利用器具に適宜な電量を上
ぐれば左記の如くである
行火や湯たんばり代用(六)ワ
ット 置コタツ二〇〇ワット

石城の稲作

第二回豫想

二割余の減收で
十四万七十一石

石城郡に於ける本年の稲作は
冷害の爲め平年に比して三萬
石以上の減收を免かれまいと
云はれてゐたが第二回の收穫
豫想の結果は收穫高十四萬七
十一石で平年に較べ二割余
の減收と見られてゐる尚ほ同
郡は濱通りに於ては比較的
作の分で双葉の如きは四割三
分余を減收する四萬八千三百
ト 置コタツ二〇〇ワット

星月旅行

貸六十里(十)

同行のはの日記

太田町に至る午後四時日暮
れて道途の感切々、町に近
づける頃街路の東方に「太田
の落雁」なるものを指し示され
るが舊古の勝を想せさせられる
如き何物もなかつた、降陽の
世を去れるに倣へ西山莊に隱
して更に西山莊に疾驅した、
同思想感一行でなければ他
に見られない勇氣大に誇すべ
し

小作協定の

勿來振農會の

石城郡勿來町農會では同町に
於ける地主小作者を以て組織
する振農會の總會を明十四日
午後一時から町青年會館に於
て開催の筈であるが協議の事
項は主として小作料の協定に
關するもので會後水稲の冷害
防除その他に就き申合せと講
演があり郡農會から柴田技手
出張すと

藤子爵の額
平町揚土台鎮座藤子爵會社
社々殿の正面に掲げる額の額
面に刻む藤子爵會社の五文字
を讀んで藤子爵會社藤子爵
に依りて計置されてゐた
右揮毫を請ふべく明十四日同
會社の額を以て選せられたる
「藤子爵會社」の額を漸く
拜した後廟堂に寶藏する水稲
の像を燈トし探り案内者の厚
意を謝して同所を辭去せる頃
の宵は漸次深み行き陰曆六日
の月が西空に高く光を投げた
霜月に近づく夜寒を覺えたが
一行の遊覽意はなかくに怯
まず麓に待つ自動車に身を託
して更に西山莊に疾驅した、
同思想感一行でなければ他
に見られない勇氣大に誇すべ
し

例年より十日早

い川前村の初雪

石城郡川前村方面に於ける十一
日昨夜の降雪が朝に至つて
約一寸を積つたが本年の初雪
で例年より約十日早く其の後
引續く寒氣は近年にない節早
のきびしさである

消防組頭

平消防組を視察

栃木縣栃木町警察署管下に於
ける消防組頭二十五名は今日
三日午前平消防組を視察し平
署を訪ねて更に好間消防組の
視察をなした

死者身元判明

列車轉覆の慘

磐城東線川前小川郷間に於ける
過般の列車轉覆で慘死した
山形縣生れ鈴木分吉の身元不
明で引取人なきため郡山市共
同墓地に假埋葬をなし災害地
村に公告されてゐたが同縣南
村山郡寺澤村居住の中島大市
妻りんが去る十二日郡山市を
訪ひ自分の夫であること云ふ
で死体を發掘首實験の結果相
違なしと判り火葬に付して引
渡したと

社の上湯氏上京の由

栃木縣下の

平消防組を視察

十一月一日の本

縣の在米高

石城郡に於ける十一月一日現
在米が昨年より七百石を増加
する變則的な數字を見せたが
縣下に於ては前年同期に比較
し十二萬八千七百七石の減少
である

子歛倉神社に安

藤子爵の額

平町揚土台鎮座藤子爵會社
社々殿の正面に掲げる額の額
面に刻む藤子爵會社の五文字
を讀んで藤子爵會社藤子爵
に依りて計置されてゐた
右揮毫を請ふべく明十四日同
會社の額を以て選せられたる
「藤子爵會社」の額を漸く
拜した後廟堂に寶藏する水稲
の像を燈トし探り案内者の厚
意を謝して同所を辭去せる頃
の宵は漸次深み行き陰曆六日
の月が西空に高く光を投げた
霜月に近づく夜寒を覺えたが
一行の遊覽意はなかくに怯
まず麓に待つ自動車に身を託
して更に西山莊に疾驅した、
同思想感一行でなければ他
に見られない勇氣大に誇すべ
し

農業方

葱栽培法

(9) 石城分場矢ヶ崎生

一、整地、定植一週間位前に豫め畑を丁寧に整地し一定の畦を作り基肥を施し更に覆土し置き、苗を定植する。整地に當つては酸性土壌は酸を中和する程度の肥料石灰を撒布し整地し置くは勿論であるが酸性地にあらすと雖も反當二十貫位の肥料石灰を撒布し整地し置くを可とするものである。

二、栽植距離、栽植に當つて畦の立て方には種々の法がある、例へば

- 畦距離形式 横列間
- 1 一尺五寸
- 2 二尺
- 3 三尺
- 4 三尺五寸
- 5 四尺
- 6 四尺五寸
- 7 五尺
- 8 五尺五寸
- 9 六尺
- 10 六尺五寸
- 11 七尺
- 12 七尺五寸
- 13 八尺
- 14 八尺五寸
- 15 九尺
- 16 九尺五寸
- 17 一丈
- 18 一丈一尺
- 19 一丈二尺
- 20 一丈三尺
- 21 一丈四尺
- 22 一丈五尺
- 23 一丈六尺
- 24 一丈七尺
- 25 一丈八尺
- 26 一丈九尺
- 27 二丈
- 28 二丈一尺
- 29 二丈二尺
- 30 二丈三尺
- 31 二丈四尺
- 32 二丈五尺
- 33 二丈六尺
- 34 二丈七尺
- 35 二丈八尺
- 36 二丈九尺
- 37 三丈
- 38 三丈一尺
- 39 三丈二尺
- 40 三丈三尺
- 41 三丈四尺
- 42 三丈五尺
- 43 三丈六尺
- 44 三丈七尺
- 45 三丈八尺
- 46 三丈九尺
- 47 四丈
- 48 四丈一尺
- 49 四丈二尺
- 50 四丈三尺
- 51 四丈四尺
- 52 四丈五尺
- 53 四丈六尺
- 54 四丈七尺
- 55 四丈八尺
- 56 四丈九尺
- 57 五丈
- 58 五丈一尺
- 59 五丈二尺
- 60 五丈三尺
- 61 五丈四尺
- 62 五丈五尺
- 63 五丈六尺
- 64 五丈七尺
- 65 五丈八尺
- 66 五丈九尺
- 67 六丈
- 68 六丈一尺
- 69 六丈二尺
- 70 六丈三尺
- 71 六丈四尺
- 72 六丈五尺
- 73 六丈六尺
- 74 六丈七尺
- 75 六丈八尺
- 76 六丈九尺
- 77 七丈
- 78 七丈一尺
- 79 七丈二尺
- 80 七丈三尺
- 81 七丈四尺
- 82 七丈五尺
- 83 七丈六尺
- 84 七丈七尺
- 85 七丈八尺
- 86 七丈九尺
- 87 八丈
- 88 八丈一尺
- 89 八丈二尺
- 90 八丈三尺
- 91 八丈四尺
- 92 八丈五尺
- 93 八丈六尺
- 94 八丈七尺
- 95 八丈八尺
- 96 八丈九尺
- 97 九丈
- 98 九丈一尺
- 99 九丈二尺
- 100 九丈三尺

株間 植方 備考

1 四寸 一條植

2 五寸 二條植

3 五寸 五條植 床踏切一尺

4 四寸 廣畦踏切一尺

右の如く栽植方法には種々あるも排水不良地に於ては前表(3)の三尺市床の方法を行ふを可とする又小面積に於て密植栽培を行ふ場合には(5)の五尺市床と(6)の廣畦踏切は一尺隔きの植列に株間四寸の距離に栽植する方法を可とするが一般に排水良好の土地に於て普通栽培を行ふ場合には(1)の畦の距離を一尺五寸とし株間四寸の一條植の方法が最も、

四、定植法、先づ畦栽培にては整地後一尺五寸隔きに畝巾にて深さ二寸位に堀り上げ基肥を施し堀上げた土

返し更に其の表面を軽く緻にて壓してその上に四寸の株間に苗を栽植する、

牛も豚も優良品の自慢

肉の御 三三屋 平町 田町

用命は

お醤油は ヤマフル

醤油味噌
たひら正宗
鯉節食料品

山崎合名會社

明治生命磐城代理店 山崎與三郎

電話 一〇七〇番

秋の流行洋品御案内

新柄シヨール豊富陳列
ソフト帽とネクタイ多数取揃
優良毛布とハンヤ枕豊富
毛織新型子服とケーブマント

ヤルツ

〇四一電 四平

内科、小兒科

大森醫院

醫學士 大森勇

平町南町 電話二五八番

開院

五十嵐婦人科醫院

醫學博士 五十嵐雄二

入院需應 平町新川町一七
電話三七〇番

中野齒科醫院

院長 日本齒科 中野惠次
醫學士 日本齒科 西川誠
平町田町(松月堂向ひ) 電話五〇九番

目科療診

一、齒科 一般
保存科、補綴科、鑲齒架工科、
齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿瘍科、
一、口 腔 外科
一、レントゲン科

債券 公債 兩替 金融

多田井質店

平町大工町 電話五九一番

便利で 經濟な 日下家政婦會の

● 派出婦を御利用下さいませ

身元確かで品行方正ですから
何を任せしてもご安心です

平町字出町十八番地(西村屋横町)

日下家政婦會
會長 日下すい子
電話(呼)一八九番

平町紺屋町 藤沼醫院

電 五〇七番

スベイン G・H・N 元詰
ゴルフポートワイン
甘味葡萄酒 1・10

御婦人の方には少し水を加へて
召し上ると風味一そう佳良です

(平2) 西村屋藥舖 (電3)

鼻の諸病に快鼻湯

有効保證

本劑は漢方醫の方劑で鼻病の爲め種々の外用藥並に内服藥を用ひ全治せざる方々及び手術後再發せられし方々も本劑の服用により快癒された喜びの稱狀が各地から送つて居ります

蓄膿症、慢性急性鼻加答兒、鼻汁多過症、
頭重、肥厚性鼻炎、その他鼻骨彎曲症、
並に中耳炎に神効の賞讃を受く

能効

(快鼻湯)
製劑販賣元 水野藥局
磐城平町一丁目(電話六九九番)
振替口座仙八八七六番

朝日新聞

金屋商店

毎度御引立を蒙り御厚情深謝致します、今回當店に於て貨物自動車部を新設し金成自動車部を專屬として三十五年式新車を以て貨物一般の運輸に従事致しましたから倍舊の御用命と御利用の程を偏へに御願上ます、

鐵道、貨物一般

小口三清宮運送店
電話二六七番

貨物自動車運輸 電話二六七番

自動車の御用命は 電話二六七番

金成自動車部

石炭 水野石炭店

平町郵便局通り
電話二九九番

豆炭